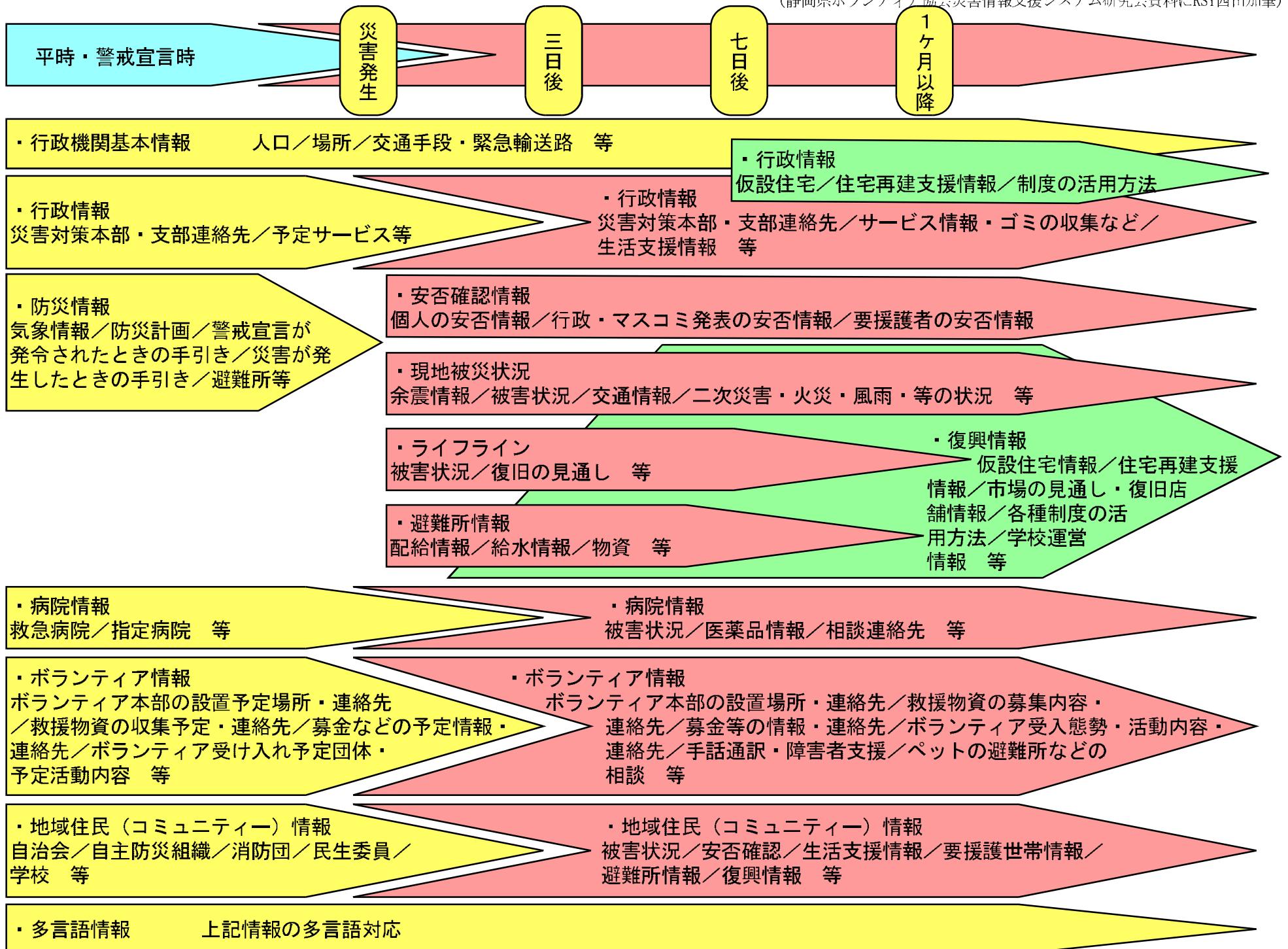


災害N P O・ボランティアの取組みと課題

特定非営利活動法人レスキューストックヤード代表理事

西田 又紀二 氏



震災がつなぐ全国ネットワーク

災害救援ネットワーク北海道（北海道）
ハートネットふくしま（福島）
那須町水害ボランティアセンター（栃木）
とちぎボランティア情報ネットワーク（栃木）
ローカルパーティ元気都市会議（千葉）
シャンティ国際ボランティア会（東京）
東京・調布レスキューボートバイクネットワーク（東京）
東京レスキューバイク（東京）
川崎・災害ボランティアネットワーク会議（神奈川）
災害時ボランティアコーディネーター静岡県東部連絡
神戸～新潟結ぶプロジェクト（新潟）
サポートKOBEながの（長野）
NPO法人 レスキューストックヤード（愛知）
NPO愛知ネット（愛知）
カリタス大阪（大阪）
被災地NGO協働センター（兵庫）
プロジェクト結ぶ（兵庫）
ほたるの家（熊本）
結～ふくおか～（福岡）
島原ボランティア協議会（長崎）



物資が来たぞう！！
考えたぞう！！

ボランティアが来たぞう！！
考えたぞう！！

お金がいるぞう！！
考えたぞう！！

情報があるぞう！！
考えたぞう！！

どうつくる？
水害ボランティアセンター

2000年9月 東海豪雨水害により 災害救助法が適用された17市町



国土地理院承認 平14認規 第149号

2002年9月 東海豪雨水害 ボランティアセンター設置状況



愛知県

<ローテク情報について>



張り紙

安否情報や病院、銭湯、商店再開など地域に密着した生活情報はマスコミ等のメディアより、避難所の壁に貼られた情報の方が、利用しやすかった。



掲示板

ボランティアセンターに於いても、日々変わる状況や、多数のボランティアが情報を共有するには掲示板方式が用いられた。



ミニコミ紙

ピースボートが神戸市長田区で1月26日から3月9日まで毎日発行し続けたミニコミ紙『デイリーニュース』は、震災で甚大な被害を受けた長田区の住民に対して、きめ細かな情報を提供した。

その後、地元ボランティア団体「すたあと長田」が『ウィークリーニュース』として3年間継続した。

1. 地域に密着した実際に役立つ生活情報を提供した。
2. 救援物資の状況と配給情報を知らせ、滞っていた物資の流れを円滑にする調整の役割を果たした。
3. ボランティアの派遣・振り分けをし、行政とボランティアの橋渡し役を果たした。
4. 被災者を励まし元気づけた。
5. ボランティアが被災者とコミュニケーションをはかるきっかけ、交流の場をつくり、被災者同士が心をふれ合う橋渡しをした。

ミニコミ紙はマスメディアがフォローできないきめ細かな地域密着情報の提供を通じて、「情報空白域」を埋める役割を果たした。

その他のミニコミ紙：『六甲ステップ』『神戸大学新聞号外』『生活情報』『中央なんでもかわら版』『ライフライン』『読売移動支局号外』等